

小山剛さんを偲んで

リガール暮らしの架け橋グループ本部きたおおじ代表 山田尋志

小山さんは、時代の激流を、懸命に力の限り泳ぎ続けた、そんな印象があります。顔を挙げる余裕もないほどの濁流の中で、それでも、出会った多くの人たちに笑顔で手を振って、皆を勇気づけてきた、逞しく優しい小山さんの姿が想い浮かびます。

*

小山さんと初めてお会いしたのは、私が京都市右京区の健光園で事務長をしていた1986年ごろのようです。看護師の吉井さんと二人で訪ねていただいた時に、近くのお寺で団子を食べ歩いて約束の時間に遅れたことへの私の対応が印象的だったようで、繰り返し話題にしてくれていました。実は、私にはその記憶がありません。

親しくおつきあいをしたのは、1997年に始まった「実践会議」での出会いからでした。「実践会議」でしたが、時々、京都に悩みや弱音を吐きに来てくれました。

もうひとつ忘れられないことは、災害に対する小山さんの取り組みです。2004年の新潟県中越地震の報を東京で知った小山さんは、車で深夜に施設にたどり着き、明け方には、ほとんどの職員が集まってくれていたことに感動したことを語ってくれました。1995年の阪神淡路大震災での教訓を生かし、仮設住宅で高齢者、障害者が孤立することのないよう介護等支援拠点の併設を試行しました。災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボードの活動もそれを契機に始めており、その後、

というのは、武田和典さん（特養・老健・医療施設ユニットケア研究会代表）と宮島渡さん（社会福祉法人恵仁福祉協会アザレアンさなだ施設長）が呼びかけた会で、そこで、その後、全国各地で活躍する若い福祉実践者たちと出会い、刺激を与え合

い学びあう場となりました。

1999年だったでしょうか（前後しているかもしれません）、何度目かの実践会議が長岡のこぶし園で開催され、小山さんの活動に触れて、強い印象を受けたことを今も鮮明に思い出します。小山さんが、ちょうど大型のショートステイ事業と格闘していたところで、施設サービスやシヨートステイが、決して高齢者本人の気持ちに沿ったものでないこと、一方で家族の疲弊している実情を知り、それらに立ち向かうことは専門職として逃げられないことなのだ

と職員に訴え鼓舞していること、東日本大震災でも、即日、支援物資を搭載して車で被災地へ駆けつけていました。本来の福祉・介護事業だけでなく超人的な毎日だった小山さんにとつて、それに加えての災害地支援やサンダーボードの活動は、その熱い使命感から亡くなるまで続けられました。その活動には、とても大きなエネルギーを費やしていた印象があり、小山さんのライフワークの重要な位置を占めていたのだと思っています。

*

そして、在宅にフルタイムサービスを提供することの必要性などを語ってくれました。

しかし、その時に、小山さんが展開する介護事業よりさらに私の印象に残ったのは、すべての世代を巻き込んだオリエンティングや町内会ごとへの頻回の出前講座など、工夫を凝らしたイベントを毎週のように行っており、地域社会への福祉的なアプローチに熱心に取り組んでいたことです。困難をかかえている人たちの実情にアプローチし、飛び込んでき、その課題に必ず応えていく行動力と覚悟の凄味を感じました。

私は、小山さんがよく言っていた社会福祉法人の目指す2つのCSのひとつである「Community Satisfaction 地域社会の満足」を求めているのは、昼夜休日問わず、労を惜しむことなく地域の皆さんの中に入っている、そこから学び取ったものに対して

「この度新たな疾病が発見され、それも2/17の誕生日の事でした。病名はすい臓がん、それも他臓器に転移し末期症状との事で余命1〜2カ月の宣告を受けたところです。青天の霹靂で、映画を見ているような感覚でしたが、事実変わりませんので残された時間をこれまでかえりみなかった家族と過ごすつもりです。手術も抗がん剤治療も間にあいませんので、自宅ですのりまで前を向いて生きていきます。

時間を勘違いして見学に行つて以来お付き合い頂きました事、本当に感謝しています。好きなことに自由に取り組めたことは大きな責任を感じ

じつつも毎日がドキドキワクワクの楽しいチャレンジの連続でしたし、本当に素晴らしい人たちとの出会いに感謝・感謝です。本当にありがとうございます。こんな私が言うのも変ですがどうぞご自愛ください。」

*

このメールが届いた23日後、2015年3月13日、小山さんは旅立ちました。小山さん、ほんとうにありがとうございました。私たちがこそ、素晴らしい小山さんに出会えて幸せでした。小山さんが思い描いていたモデルが、この国で実現していく様子を見守って下さい。



社会福祉法人長岡福祉協会
高齢者総合ケアセンターこぶし園
総合施設長 小山 剛氏 略歴

1977年東北福祉大学卒業後、知的障害児施設「あけぼの学園」・重症心身障害児施設「長岡療育園」の児童指導員を経て「社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園」に主任生活指導員として勤務。同センターの総合施設長、同法人の理事・評議員・執行役員・首都圏事業部相談役。

社会保障制度改革推進会議専門委員、東北福祉大学特任教授、認定NPO災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボード代表理事、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会副理事長、日本認知症ケア学会代議員、NPO介護人材キャリア開発機構理事、全国経営協高齢者福祉事業経営委員会専門委員、他多くの公職を併任。

2015年3月13日に逝去。

◆著書（共著・監修等）

『地域包括ケアシステム』（オーム社）、『高齢者ケアはチームで』（ミネルヴァ書房）その他多数

◆受賞等

- 平成17年度日本認知症ケア学会読売認知症ケア賞奨励賞受賞
- 平成20年防災功労者防災担当大臣表彰受賞
- 平成20年天皇皇后両陛下防災おねぎらい式出席
- 平成22年BCAOアワード特別賞受賞（BCPの作成）
- 平成24年Social Worker of the Year 2012受賞

※2015年3月13日時点（同法人ホームページより抜粋）